

# 「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

## 1 生育状況（実証ほデータ）

前年に比べて、草丈はやや長く、茎数は多く、葉齢はやや進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数は前年並み、葉色は濃くなっている。

幼穂形成期は、前年より2日程度早い7月11日頃と見込まれる。

表1 「富富富」の生育状況（6月18日 栽培実証ほ）

年次または 試験内容	ほ場数 (筆)	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色		幼穂 形成期
				(本/株)	(本/㎡)		葉色板	SPAD	
R元	12	5月13日	35.7	23.0	494	9.1	4.5	43.2	(7/11)
H30	19	5月15日	33.0	19.5	428	8.7	4.4	41.8	7/13
H29	16	5月14日	30.0	18.9	390	8.4	4.4	41.3	7/12
前年比・差		-2	108	118	115	0.4	0.1	1.4	(-2)
早期田植栽培	6	5月4日	39.7	28.7	614	9.9	4.5	43.4	(7/5)
高品質安定栽培	6	5月15日	34.4	23.2	511	8.9	4.5	41.9	(7/12)

注) R元・平均: 生育観測栽培と高品質安定栽培・対照区(合計12ほ場)の平均

H30およびH29: 特別栽培米を除く、それぞれ19および16か所の平均

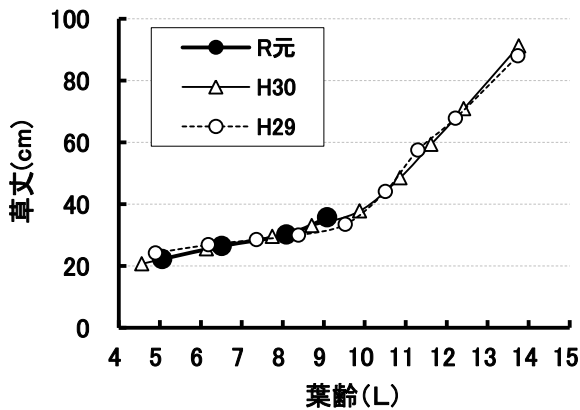


図1 草丈の推移（富富富実証ほ）

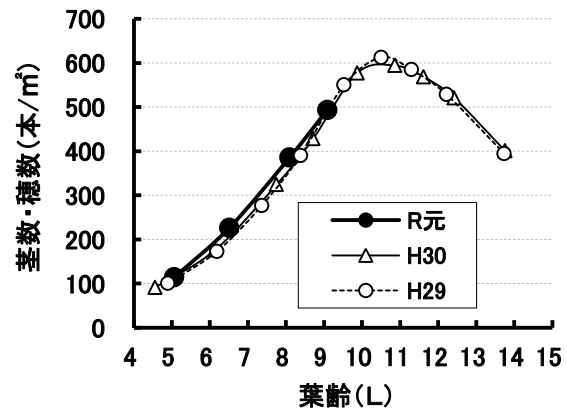


図2 茎数の推移（富富富実証ほ）

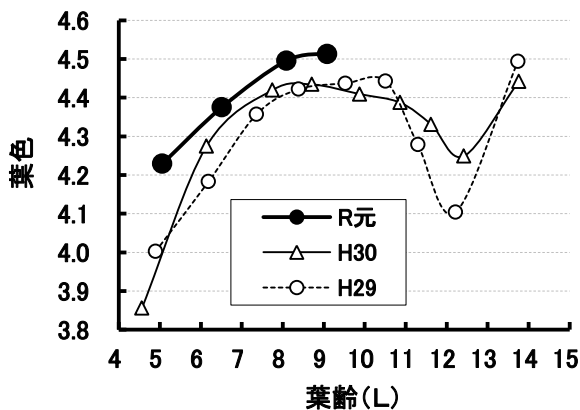


図3 葉色の推移（富富富実証ほ）

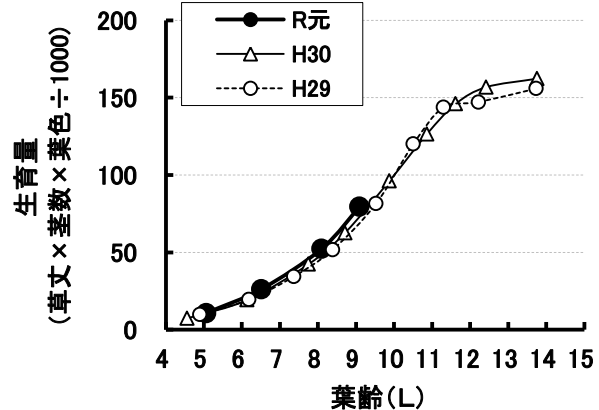


図4 生育量の推移（富富富実証ほ）

## 2 当面の技術対策

- ・葉色が濃く推移していることから、幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値 35（群落葉色 4.0 程度）に誘導する。
- ・稲体や根の健全化のため、幼穂形成期から出穂期まで飽水管理を行う。
- ・分施栽培における穂肥は、1 回目を幼穂形成期の 7 日後頃に窒素成分で 0.75 ～1.0kg/10a、2 回目を 1 回目の 7 日後に窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。

### (1) 水管理

- ・葉色が濃く推移していることから、中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値 35（群落葉色 4.0 程度）に誘導し、適正籾数を確保する。
- ・幼穂形成期から出穂期までは、飽水管理を行う。

#### <水管理のイメージ>

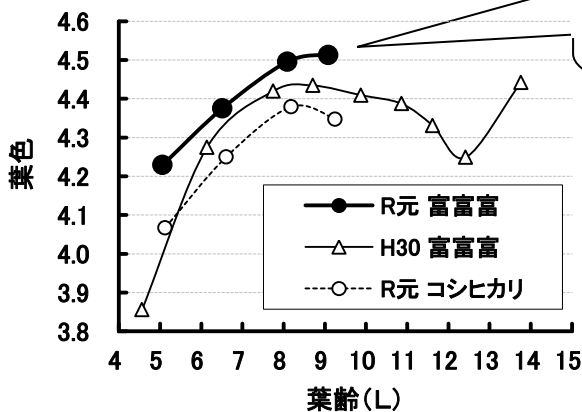
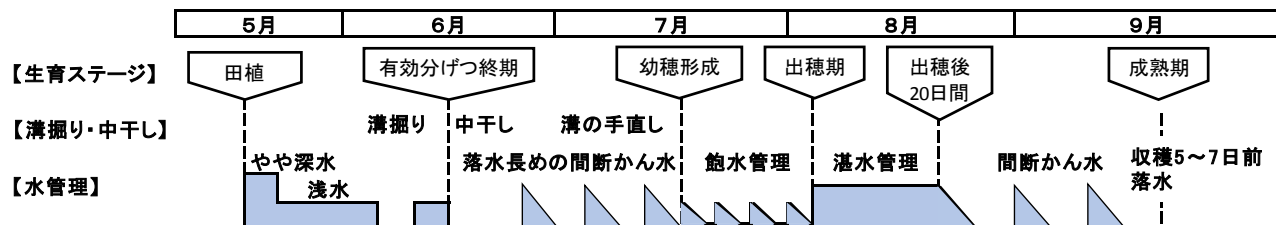


図5 葉色の推移（富富富実証ほ）

R元年産「富富富」は前年よりも葉色が濃く推移しているため、中干し後は幼穂形成期まで、落水期間が長めの間断かん水を実施。

## (2) 分施肥における穂肥施用

穂肥は1回目を幼穂形成期の7日後頃(幼穂長15mm程度)に窒素成分で0.75~1.0kg/10a施用し、2回目を1回目の7日後に1.5kg/10a施用する。

幼穂形成期頃の施用では、くず米が多くなり、収量が低下。

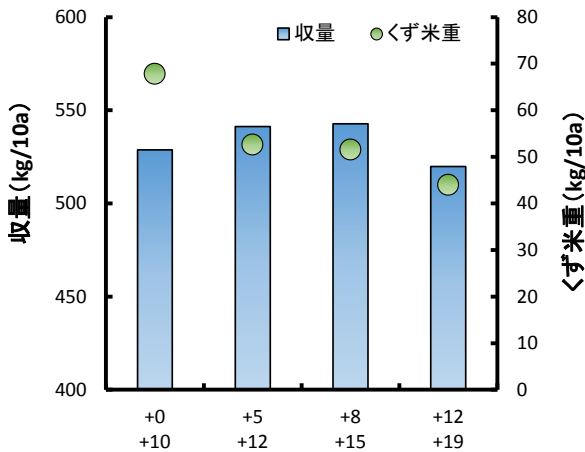


図6 穂肥施用時期と収量の関係 (H30 農研)

注) グラフ横軸の数値は幼穂形成期後の日数を示す。

施肥量: 1回目 1.0kg/10a、2回目 2.0kg/10a

図7も同様

幼穂形成期頃の施用では、乳白・心白粒、青未熟粒の発生が多く、品質が低下。

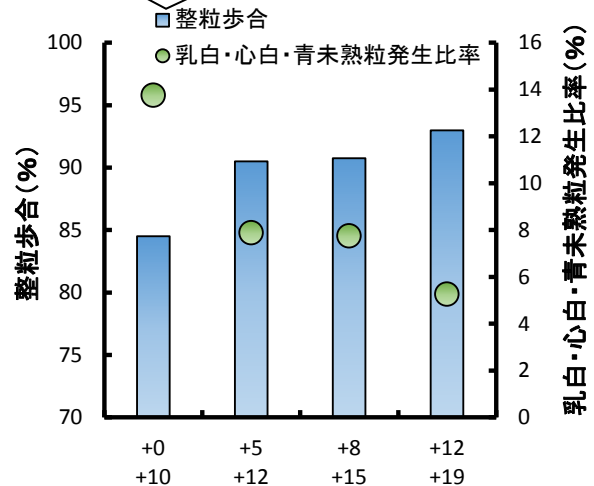


図7 穂肥施用時期と玄米外観品質の関係 (H30 農研)

## (3) 病虫害および雑草防除

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるように留意する。

### <カメムシ類>

- ・ 畦畔等におけるカメムシ類の確認地点率は平年より低いですが、今後の発生量を抑制するため、イネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底する。

※ 草刈り運動期間: 7月1日~10日      一斉草刈り日: 7月6日~7日

- ・ 本田内のノビエやホタルイも、カメムシによる被害を助長するので、除草に努める。

### <紋枯病> ※平年の初発確認日6月23日 (H30: 6月25日)

- ・ 前年発生がみられたほ場で箱施薬剤を施用していない場合は、出穂3~4週間前(粒剤)または穂ばらみ期(粉剤、液剤等)の防除を確実に行う。
- ・ 本田防除は要防除水準に基づき防除要否を判定し(表2)、適期に、薬剤が株元に付着するように散布する。

表2 紋枯病の薬剤散布適期と要防除水準 (コシヒカリ)

品 種	薬剤散布適期 (防除要否判定時期)	要防除水準 (発病株率)
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%